

日本細菌学会 平成 28 年会務総会記録

日 時：平成 28 年 3 月 24 日（木）13：40～14：40
会 場：大阪国際交流センター 1 階大ホール

理事長兼、年次学術総会長である堀口安彦氏が議長を務めた。

I. 物故会員報告

堀口理事長より、平成 27 年 3 月 15 日～平成 28 年 3 月 10 日に逝去された名誉会員 3 名（緒方幸雄氏、五島瑛智子氏、斎藤 肇氏）、正会員 2 名（徳永恵子氏、牧野耕三氏）の物故会員について報告があり、出席者全員で黙祷が捧げられた。

II. 会務報告

(1) 会員の現況

堀口理事長より、平成 28 年 2 月 29 日現在の会員数について、名誉会員 39 名（+1 名）、正会員 1,890 名（-71 名）、学生会員 511 名（+20 名）、賛助会員 42 社（+13 社）[いずれも（）内の数字は、昨年の会務総会報告で報告された数字との差] であることが報告された。

(2) 各種部会活動

- ・ 広報担当の中川理事より、学会のフェイスブックを立ち上げているので多くの会員に閲覧していただきたいこと、また、第 89 回総会終了後に会員各位にメール配信をもって、総会に関するアンケートを実施することが述べられた。アンケートは次年度の総会に活かすため、多くの方に回答してほしいとのことであった。
- ・ 選挙担当の八木理事より、次回の役員選挙は電子化する方向で進めていることが報告された。
- ・ 教育担当の松下理事より、‘細菌学若手コロッセウム’の位置づけについて以下説明がなされた。
 - ・ 様々な学会に所属する若手研究者が参加している学術集会である。
 - ・ 本事業は、どの学会からも独立した学術集会である。
 - ・ 日本細菌学会として人材育成のため積極的に支援していく事業としており、30 万円の支援をしている。
 - ・ 支援の成果を本会にもフィードバックしてもらうための工夫をしている。
 - ・ 優秀な若手人材の宝庫であり、人事を検討している場合にも非常に有用な場である。

また、その他に以下 2 点についても報告がなされた。

- ・ 財政状況の改善を図るために一時停止していた‘初等教育における細菌学啓発活動’を再開する。そのための予算化も行った。
- ・ 前委員会から進められてきた、細菌学教育用映像素材集の動画第 2 版「グラム陽性球菌の同定・グラム陰性桿菌の同定」が完成し、今総会から 3,000 円で頒布を開始した。
- ・ MI 誌担当の川端理事より、財政状況改善の一環として、2017 年の契約更改において各種交渉を行なっていることが報告された。また、インパクトファクターを上げるために多くの論文を投稿してほしいとの要望が出された。
- ・ 用語担当の八木理事より、微生物学用語集の改定版は Web 化し、学会 HP に載せる方向性で進めていることが報告された。
- ・ 日韓微生物等担当の桑野理事より、5 月 12 日～13 日に開催される第 13 回韓日シンポジウムにおいてポスター発表の募集をしていること、また、若手研究者助成として 1 名 7 万円として、

10名の公募をしていることが述べられた。

(3) 名誉会員選考経過

神谷名誉会員選考委員長より、平成 27 年 11 月 10 日に行なった選考において、推薦された内山竹彦氏、奥田克爾氏、島村忠勝氏、中村信一氏、本田武司氏の 5 名を新名誉会員として選考したことが報告された。

(4) 学会賞選考経過

赤池学会賞選考委員長より、平成 27 年 10 月 19 日に東京駅八重洲倶楽部で開催した選考委員会にて、浅川賞に池 康嘉氏、小林六造記念賞は小嶋誠司氏、黒屋奨学賞には井口 純氏、日吉大貴氏を選考したことが報告された。

(5) 平成 27 年度収支決算

堀口理事長より、会場前方のスクリーンに表示された平成 27 年度決算書をもとに報告がなされた。2,305,899 円の黒字決算となったが、これは各事業の収縮・削減による結果であり、財政状況が改善されたわけではないことが強調された。

(6) 平成 27 年度会計監査

大原監事より、平成 28 年 1 月 21 日に関水会計理事同席のもと、三宅監事とともに会計監査を実施し、決算報告内容に間違いがないことを確認したことが報告された。

(7) 平成 28 年度収支予算

堀口理事長より、会場前方のスクリーンに表示された平成 28 年度予算書をもとに説明がなされた。

(8) 第 9 回細菌学若手コロッセウム終了報告

代表世話人である小松澤 均氏より、6 名の世話人（久留島 潤氏、後藤恭宏氏、中根大介氏、中井亮佑氏、福田真嗣氏、松尾美樹氏）と企画・運営し、11 月 23 日～25 日までの 3 日間、鹿児島島の KKR ホテル鹿児島敬天閣にて開催したことが報告された。参加者は 74 名、発表数は 49 題（口頭発表 23 題、ポスター発表 25 題、特別講演 1 題）であったことや、収支について説明がなされた。

次回（第 10 回）は、2016 年 7 月 31 日（月）～8 月 2 日（水）に草津セミナーハウスにて開催予定である。

(9) 次期（第 90 回総会）総会長挨拶

赤池次期総会長より、会期は平成 29 年 3 月 19 日（日）～21 日（火）、会場は仙台国際センター展示棟となること、プログラムはシンポジウム等企画調整委員会や理事長と意見交換をしながら決定していくことが報告された。シンポジウム・ワークショップは公募も予定しており、特に若手の方々からの応募を求めているとのことであった。また、グローバル化を図るため、英語による発表を多くしたいとのこと述べられた。

(10) 次々期（第 91 回）総会長挨拶

堀口理事長より、3 月 22 日に開催された評議員会にて、理事会から推薦された林 哲也氏の就任が承認されたことが報告され、同氏より挨拶がなされた。会期や会場は検討中とのことであった。

(11) その他

堀口理事長より、学会の法人化に向けて、法人化検討委員会を立ち上げたことが報告された。メリット・デメリット等を確認・検討し、進捗状況は学会 HP 等にて情報提示していくとのことであった。また、会員からも意見があればお寄せいただきたい旨も述べられた。

Ⅲ. 議事

(1) 会則改訂について

堀口理事長より、会務総会で議決するには‘正会員・学生会員総数の 1/5 の出席（委任状も有効）’が必要であることが説明され、550 名から委任状の提出がなされていることから議決できる状況にあることが述べられ、議事に入った。

堀口理事長より、会則改訂の目的は支部会費徴収制度の廃止であり、これまで会員から徴収していた支部会費は、2017 年以降は本部会費とすること、ただし各位から徴収する総金額自体には変更がないことが説明された。

これを実施するために、会則第 10 章の第 42 条 2、第 42 条 3、第 42 条 5 を改訂することが述べられ、その内容が会場前方のスクリーンに表示された。

審議の結果、承認された。

また、昨年に前役員体制主導のもと改訂された会則において、一部条項の記載に誤りがあったため、今回の改訂に併せて会則第 2 章の第 5 条 1、第 5 条 2 も修正したいことが述べられ、審議の結果、これも承認された。

Ⅳ. 学会賞授与式

堀口理事長と、寄贈元である学校法人北里研究所・所長の藤井清孝氏より、浅川賞が池 康嘉氏に、小林六造記念賞が小嶋誠司氏に授与された。また、黒屋奨学賞は井口 純氏、日吉大貴氏に堀口理事長から授与された。

その後、藤井氏と堀口理事長より祝辞が、池氏より受賞者を代表して謝辞が述べられた。